

3 インドシナ半島での終戦措置

昭和20年8月12日 在タイ山本大使より
東郷外務大臣宛(電報)

ポツダム宣言受諾の意向をタイ側へ伝達について

1176 昭和20年8月11日 東郷外務大臣より
在タイ山本大使宛(電報)

ポツダム宣言受諾に關しタイ側への通報振り

につき訓令

本省 8月11日後2時発

第八八號(緊急、館長符號扱)

往電合第六五九號ニ關シ

日泰間ニ於テハ同盟條約第四條ニ基キ單獨不講和ヲ約シ居ルノミナラス此ノ種事態ニ處スル場合同國ノ地位ハ自ラ他ノ大東亞諸國ト區別シテ考慮スルノ要アルヘキヲ以テ冒頭往電ノ趣旨申入ノ際「タイ」國政府ニ於テモ何等カ適當ト認メラル方途ヲ講スル意嚮アルニ於テハ帝國トノ連繫ノ下ニ速時必要ナル交渉ヲ開始セラルニ異存ナク「タイ」國カ飽ク迄東亞ノ有力ナル獨立國トシテノ地位ヲ保全セラルコトハ常ニ帝國カ衷心希望スル所ナル旨ヲ通達シ置カレ度

1177 昭和20年8月12日 パンコク 8月12日後10時00分発
東郷外務大臣宛(電報)

第五九號(大至急、館長符號扱)
貴電合第六五九號ニ關シ

本省 8月15日後7時20分着

十二日午後兩武官ヲ帶同總理ヲ往訪(外務大臣同席ス)御内示ノ趣旨ヲ申入ルルト共ニ之ヲ口上書ニ記シタルモノヲ携行シ尙口頭ヲ以テ今回遽カニ媾和提案ノ舉ニ出テタルハ敵側カ原子爆彈使用ノ如キ非人道的行動ニ出テタル以上此ノ上悲慘ナル災害ヲ防止セントスル人道的立場ニ出テタルモノニ他ナラス唯今回敵側ノ提案ヲ基礎トスル和平ヲ講スルノ受身ノ立場ニ置カルルノ餘儀無キニ立至レルモ日本トシテハ現在迄東亞ノ解放ニヨル世界ノ平和確立ノ爲努力シ來レル點ニ自ラヲ慰メ得ルモノアリ之ニ關シ「タイ」カ極メテ緊密ナル協力ヲ日本ニ對シ致シ來レルハ日本トシテ感謝ニ堪エサルトコロニシテ今後共兩國ノ親善關係ヲ維持シ度キ熱望ヲ有スル旨竝ニ今後如何ナル事態トナルトモ「タイ」

國內ニ於ケル日本軍及日本人ニ對スル「タイ」官民ノ友好

關係維持ノ爲協力セラレンコトヲ希望シタル處總理ハ之ニ

對シ總テ了承同感ヲ表シ唯日本ノ今回ノ措置ニ關聯スル

「タイ」側ノ方途ニ付テハ明日早速閣議ヲ開キ何等決定ノ

上貴使迄申入ルヘント述へ更ニ本使等日本側出先官憲ノ今

日迄ノ緊密ナル連絡ハ多トスルトコロナルモ今回日本ノ講

和提案ハ敵側ニ於テ既ニ十二日朝受諾セリトノ外國放送モ

アル程ニテ「タイ」ハ完全ニ日本側ヨリノ事前ノ連絡ヲ受

ケサリシ爲唯、一ノ抗戰國トナリ對內的ニモ苦シキ立場ニ置

カレタルハ自分トシテ不滿ヲ感セサルヲ得ストテ累次申進

ノ如ク今後ノ事前連絡ニ付強キ希望ヲ述ヘタルニ付本使ヨ

リ右ハ敵ノ原子爆彈使用開始ニ依リ一刻ヲ爭ハサリシヲ得

サリシコト等ニ依ルモノナリトテ適宜應酬シ置キタリ尚今

日ノ會見ニ於テモ總理ハ今後共日本「タイ」友好關係ノ維

持増進ニ付最善ノ努力ヲ盡スヘキ熱意ヲ披瀝シ居レリ

大東亞大臣へ轉報アリタシ

時局急変説に対するインドシナ三国国民の反応につき報告

ハノイ 8月13日発

本省 8月13日着

B第二一號(大至急)

外務大臣發合第六五九號ニ關シ

本使ニ於テ夫レトナク軍司令官ト懇談ノ結果當方面ノ空氣

左ノ通ニシテ土橋中將ヨリノ依頼ノ次第モアリ御参考迄

十日夜半以來ノ外國放送ニ依リ現地人ハ非常ノ衝動ヲ受ケ

特ニ佛人ノ再來ニ戰慄シアリテ彼等カ日本ニ懇願スル所ハ

是非トモ佛人ノ再來ヲ阻止セントスルコトナリ若シ此ノ一

點ヲ阻止シ得ハ獨立國タルヲ希望スルハ勿論ナルモ如何ナ

ル形式タルヲ問ハス國際管理(「トラスチー」)下ニ置カルル

モ満足ナリト言フニアリテ右ハ三國全民族ノ熱望ナリト認

メラル

1178

昭和20年8月13日

在ハノイ塚本公使より
東郷大東亞大臣宛(電報)

ポツダム宣言受諾通告の際のタイ国首相との

1179 昭和20年8月15日

在タイ山本大使より
東郷大東亞大臣宛(電報)

会談について

バンコク 8月15日発
本省 8月16日着

第八二六號(大至急)

貴電合第六六七號ニ關シ

十五日「ア」總理(外務大臣同席)ヲ往訪御訓令ノ趣旨ヲ申入レ尙其ノ趣旨ヲ記シタル口上書ヲ手交シタル上大詔ノ御要旨ヲ説明シタル處總理ハ感慨深ク謹聽シタル後此ノ際「タイ」國ノ執ルヘキ方途トシテ左ノ三項カ規定セラルヘシトテ本使ノ意見ヲ求メタリ

一、敵ハ現在迄尙「タイ」側ニ對シ何等申越ノ次第ナキ以上「タイ」側トシテモ格別ノ態度ニ出ルコトナク敵ノ今後ノ出方ヲ靜觀スルコト

二、敵側ノ出方ヲ見タル上必要ニ依ツテハ攝政ノ名ヲ以テ「タイ」ノ米英ニ對シ爲シタル宣戰布告ハ現在無效ニシテ「タイ」側ニ抗戰ノ意志ナク且「タイ」官吏、軍人、警察官ハ總テ英米側ノ命令ヲ遵奉スヘキ用意アル旨ヲ宣言スルコト

三、日本軍ノ自發的武装解除ニ依ル武器ハ之ヲ英米側ニ引渡

ス迄「タイ」側ニ於テ保管スルコトシテハ如何

右ニ對シ本使ハ一及三ハ此ノ際「タイ」側ノ執ラルヘキ一方途ト存スルモ三ノ點ニ付テハ今後ノ英米側トノ細目協定ニ依リ決定セラルルコトト存セラル唯名譽ヲ重ンスル我

天皇陛下

ノ軍トシテハ多數敵側軍ノ入「タイ」シ來リ其ノ面前ニ於テ武裝ヲ解除セラルカ如キハ死ニ優ル恥辱トスル所ナレハ斯カル場合ハ不祥事ノ突發モナキヲ保シ得サルニ付成ルヘク「タイ」領内ニ敵軍ノ入り來ルコトヲ避ケル様措置セラルコト望マシキ旨要望シ置キタリ尙總理ハ現内閣ハ戦時内閣トシテ各般ノ施策ヲ實施シ來リタル關係上和平措置一應形付キタル上ハ直ニ總辭職スル意嚮ナル旨並ニ日「タイ」親善維持ノ爲ニハ此ノ上共努力スヘキ旨ヲ語リタルニ付本使ヨリ其ノ自重竝ニ今後兩國ノ關係ニ關シ敵側ヨリ如何ナル要求アルトモ曰「タイ」兩國人自體トシテハ從前ノ敦厚ナル感情ニ何等ノ變化ナキヲ以テ今後共親善關係増進ノ爲努力セラレ度旨ヲ熱望シ置キタリ

外務大臣ニ轉報アリ度

~~~~~

1180

昭和20年8月21日

在ブノンペン高島(唯之)領事より  
重光外務大臣宛(電報)

日本引揚後のカンボジア情勢に関する観測について

ハノイ 8月23日後7時40分発  
本省 8月30日後0時00分着

ブノンペン 8月21日前10時29分発  
本省 8月29日前6時35分着

第一號

久保田ヨリ

「カンボヂヤ」國ニ於テハ官民上下ヲ通シ日本引揚ケノ場合佛國ノ歸來ヨリモ寧ロ米英ノ來タルヲ欲シ居ル處右ハ諒トセラル處ニシテ直ニ佛國歸來セハ事態ヲ即時ニ舊佛印ノ狀態ニ引戻スヘキヲ以テ政治經濟各般ノ激動ヲ生スヘシ若シ米英一應當地ヲ引受ケル場合ハ結局佛國ノ手ニ歸ストセヨ其レ迄ノ間ニ獨立等ノ既成事實ニ關スル保障ニ付多少共米英ト諒解ニ達スル希望モアリ兎モ角直接ノ衝動ヲ避ケ得ルニ非スヤト觀察セラル

B第二四號(館長符號扱、部外祕)

軍側ヨリノ情報ニ依レハ「ユエ」ニ於テハ廿二日以來現政府ニ對シ越盟ヨリ正式ニ皇帝ノ退位、現内閣退陣及共和政府成立ヲ要求シ他方市中ニ大示威運動行ハレタルノミナラス安南、交祉支那ノ大部分ハ越盟ニ占領セラルル狀態トナリ結局現内閣ハ總辭職シ皇帝ヨリ越盟ニ後繼内閣組織命ヲ下サレ皇帝モ自ラ退位ヲ決意シ居ル趣ナリ

我方ハ越盟カ日本ヲ排撃セサル限り内政不干渉ノ態度ヲ執リ居ルモ顧問ハ情勢ニ應シ任務ヲ打切ラシムル方針ナリ西貢、ブノンペン、海防へ轉電セリ

1182

昭和20年8月27日

在タイ山本大使より  
重光外務大臣宛(電報)

ビルマ政府解消声明の必要性につき請訓

1181

昭和20年8月23日

在ハノイ塚本公使より  
重光大東亞大臣宛(電報)

ベトミンの要求により安南国内閣總辞職及び  
越南皇帝退位決意に関する情報について

## 五 アジアの終戦

バンコク 8月27日後6時40分発  
本省 8月27日後8時20分着

第六二號(緊急、館長符號扱)

(欄外記入一)  
石射ヨリ

(欄外記入二)  
緬甸政府ハ國家代表ノ失踪ト共ニ事實上解消セルモノト思  
考セラル此ノ上何等手續ヲ執ラシムル必要モ無シト存セラ  
ルル處若シ帝國政府ニ於テ「ラウレル」ノ例ニ倣ヒ緬甸政

府ヲシテ解消ノ宣言ヲナサシムル必要アリト認メラルニ  
於テハ其ノ旨在「ムドン」舊閣僚ニ勸告スヘキニ付貴見至  
急御回電アリタシ

(欄外記入三)  
右宣言ノ有無ニ拘ラス我カ在緬甸大使館竝ニ總領事館ノ存  
廢問題モ比律賓ノ例ニ倣フヘキモノト思ハル就テハ此ノ點  
ニ關シテモ何分ノ儀御指示ヲ請フ

1183

昭和20年8月30日 在ハノイ西村總領事より

重光外務大臣宛(電報)

政権移譲や武器譲渡等に關するベトミンとの  
接觸など仏印情勢につき報告

ハノイ 8月30日後8時00分発  
本省 9月2日前6時00分着

第一八號(極秘)

塚本公使ヨリ

曩ニBK館長符號ヲ以テ報告セル當方面時局ノ推移左ノ通  
り

一、二十日北越革命人民委員會ハ河内ニ戒嚴令ヲ布キ晝間ハ  
黨旗ヲ擁スル官廳接收部隊ノ行動續キ夜間ハ十一時以後  
通行禁止ヲ命シ此ノ間晝夜共銃聲絶ヘス軍ハ戰車ヲ出シ  
テ市内ヲ警備セルモ衝突事件ナシ

二、二十一日朝越盟首領(Long)西村總領事ヲ來訪本日ヨリ

越南皇帝ノ設置セル北部政務委員會ヲ接收シ其ノ首席ニ  
就任「ユエ」ヨリノ正式任命ヲ待チ居ル旨ヲ傳ヘ行政ハ  
キンサフ官房長ニテ從來通り行フヲ以テ鐵道、通信其ノ  
他總督府官廳ノ移譲及日本軍ノ武器譲渡ヲ望ム旨申出タ

リ尙其ノ際前委員長 Chu 及委員 Lay(市長)ハ田舎ニ保護  
監視シ居ル旨又キンサハ辭任シテ(不明)ニ引籠リ中ト傳  
フ

三、同日午後渡邊領事滯河中ノ教育大臣 Hang ヲ探出セルニ  
同大臣ハ既ニ Long ト會見セル由ナルモ其ノ如何ナル人  
物ナリヤ又黨員トシテノ地位不明ナルミナラス「バオ  
ダイ」及政府ヲ否認スル態度ナリシニ付其ノ旨「ユエ」  
ニ電報セル所ナリト内話セリ

四、右ノ如ク越盟ハ「ユエ」ト妥協スルカ如クニモ受取ラレ  
又「ユエ」ヲ否認スル革命續行方針トモ受取ラレ甚タ微  
妙ナル事態トナレリ Long カ西村總領事ニ明言セル通り  
二十一日ヨリハ屋外集會禁止セラレ市内ノヘイショク全  
ク嵐ノ後ノ如ク日本軍トノ衝突ヲ極力避ケルノ態度見受  
ケラレタリ但シ平和裡ニ總督府官廳接收ノ交渉初メ又佛  
人ノ家宅捜査ヲ開始シタル爲佛人ノ不安昂マリ佛人代表  
ハ我方ノ援助ヲ求メ來レリ

五、同日夕刻米機昆明ヨリ到著シ米兵一六、佛兵  
五ヲ齎セル爲一大「センセーション」ヲ起シ佛人ノ歡喜  
頂點ニ達セリ

六、超ヘテ二十三日越盟機關紙ハ全國戒嚴ノ完成近シトテ皇  
帝ハ退位シ共和政府出現スヘシト傳フルニ至リ總督府官  
吏安南人ノ動搖甚タシ午後ニ至リ横山顧問ヨリ越盟トノ  
妥協接渉成功セス安南主要都市ニ於ケル啓明運動輕視ス  
ヘカラサル爲内閣ハ總辭職シ皇帝ハ退位ヲ決意セル旨電  
報シ來タレリ依テ軍ハ各國顧問ニ對シ此ノ上ハ顧問ノ任  
務遂行不可能ニ付各自罷ムルモ差支無キ旨訓電セリ  
七、同日夕刻曩ニ海防ニ來タレル佛人軍使三名到著前記佛兵  
メタルモ在留邦人ノ不安日每ニ増大セリ

五名ト共ニ總督官邸ニ軟禁セラル

九、二十三日聯合國放送ニ依レハ佛印ハ南緯一六度ヲ以テ南北ヲ一分北ハ支那南ハ英國軍ニ依リ占領セラル由ナルニ付南北ノ交通益々困難トナルヘク又オウフツ騒動ハ全國ニ擴大ノ傾向アリトテ益々亂ルヘキヲ豫想シ在留民保護ノ爲ニハ各領事館獨斷專行セサレハ不測ノ手遅レヲ來タスモノト思考シ各公館宛其ノ旨指令セリ

西貢へ轉電セリ

1184

昭和20年8月31日

在サイゴン河野(達一)事務所長代理より  
重光外務大臣宛(電報)

### ベトミンの活動や華僑の動向につき報告

サイゴン 8月31日前11時00分発

本 省 8月31日後4時50分着

第三八號(大至急)

當地最近ノ情勢左ノ通り

一、越盟

越盟ノ活動ハ事態急變ニ伴ヒ急ニ活潑化シ佛名道路標ノ抹消、佛字銅像ノ倒壊等佛人色ノ一掃ニ努メ居ル一方ニ

十五日市内ニテ大會ヲ開催シ(約五萬人集合)從來ノ獨立各派ヲ糾合シ八月十九日形成セラレタル「フロン、ナシヨナル」ヲ吸收シ越盟獨立ノ完成民主主義共和國建設ノ爲越南民主主義共和國南部執行委員會(委員九名)ヲ設置セリ「サム」欽差大臣ヲ軟禁シ交跡<sup>(全之)</sup>支那政廳ヲ接收スルニ至リ斯クテ金交跡<sup>(趾カ)</sup>支那ノ掌握ヲ了シタリ右ニ伴ヒ安南民衆ハ相當尖銳化シ居ルモ日本人、佛人其ノ他外國人ニ對スル暴行沙汰、盜難等ハ意外ニ少ク秩序ハ概々維持セラレ居レリ

二、華僑

軍側トシテハ日、佛其ノ他外國人ノ生命財產ヲ保障スルコト政廳以外ノ官廳ハ之ヲ接收セシメサルコトヲ嚴ニ申渡シ居ルモ安南人間ノ問題ニハ中立的態度ヲ持シ居レリ

事態急變直後ニ於ケル華僑ハ外面上至極冷靜ニ事態ノ推移ヲ見送リタルモ二十一日華僑不逞分子(鋤奸黨ト自稱ス)ノ撒布セル聯合國代表西貢到着ノ「デマ」ニ跳ラサレ華僑ハ何レモ米、英、蘇、支四國旗ヲ軒ニ掲ケ且歡迎ノ爲西貢埠頭附近ニ集結シタル約二千名ノ華僑ハ安南警察官等ト衝突シ數十名ノ負傷者ヲ出シタルモ事態ハ直ニ

收拾セラレタリ

爾來華僑側ハ一般ニ平靜ニ復歸セルモ鋤奸黨一派ハ猶蠢動ヲ續ケ居リタルヲ以テ二十七日憲兵隊ニ依リ解散セラレタリ

河大ヘ轉電セリ

1185

昭和20年9月1日

在タイ山本大使より  
重光外務大臣宛(電報)

バーモウらの消息に関する英國側等への応答  
振りの背景について

バンコク 9月1日前9時00分発  
本 省 9月2日後4時30分着  
第九二號(緊急、館長符號扱、絕對極祕)  
石射大使ヨリ

往電第九一號ニ關シ

右往電ノ措置振ハ交通通信ノ困難トナレル今日關係各軍其ノ他ノ方面ト意見ヲ交換スル遑無ク本使及平岡大佐ノ間ニ

一、「バーモウ」ノ足取ヲ出先ニダケボカス現在殊ニ  
二、「バ」ト家族トハ何レノ地ニ於テモ面會シ居ラス

トノ建前ニテ採リ舉ケタル案ナルカ從來餘リニ長ク「バ」

ヲ「ムドン」ニ引留メ置キタルコトヨリ生シタルノミナラス萬一決行遲延ノ爲英側ヨリ銳ク穿鑿サル時ハ馬脚ヲ露ハシ易キ案(殊ニ「コンポンチヤム」ノ地名祕匿ノ點)ナル

カ事緊急ヲ要スル問題故不取敢之テ實施スルコト致度

就テハ中央ニ於テ右御含ミノ上對處セラレ度尙(1)「バ」カ

「タンビザヤ」ヨリ失踪セルコト(2)「バ」家族カ盤谷在住中ナルコト(3)「バンドラウセン」及家族カ歸緬セルコト

(確定ノ上ハ追電ス)ハ在盤谷本使ヨリノ報告ニヨリ中央ニ於テ御承知ノ建前ヲ取ラレタシ御意見アラハ至急回電請フ冒頭往電ノ趣旨「バ」夫人子供「バンドラ」及家族等ニ充分申含濟ナリ

西大ヘ轉報セリ

北澤參事官ニ内報セラレ度

~~~~~

1186 昭和20年9月1日 在タイ山本大使より
重光外務大臣宛(電報)

渡日したバーモウに対する厚遇方意見具申

バンコク 9月1日前9時00分発

本省 9月2日後5時10分着

右ノ點御考慮置ヲ請フ

北澤參事官ニ内示セラレ度

第九三號(大至急、部外絕對極祕、館長符號扱)

石射ヨリ

「バーモウ」氏ハ蘭貢ヨリ撤退ノ際軍側ヨリヒトイ目ニ遭

ハサレ又其ノ後ハ緬甸政府ヲシテ引續軍ニ協力セシムルト

ノ名目ニテ「バ」ヲ「ムドン」ニ釘付ケニシ大小トナク其

ノ活動ヲ封シ居タルコトニ對シ怨嗟ノ情深キモノアリ誠ニ

尤モノ儀ナルニ付中央ニ於テハ之ヲ償フ意味ニ於テモ充分

「バ」氏ヲ優遇セラルル必要アルコト勿論ト存スル次第ナ

ルカ一方「バ」氏家族「ヤンナイン」及使用人等ヲ含メ十

四人「タイ」大使館借用ノ空家ヲ又借シテ差當リ住ハセ居

レリ所持金ハ四〇萬「バーツ」ト稱シ内譯「バーツ」六萬

「ピアストル」十四萬金塊五「キロ」ニシテ當地「ピアス

トル」卸賣金塊相場ハ「ボツダム」宣言受諾以來激落シ尙

下向キ傾向ナリ差當リ暮シ向キニハ困ラサルモ遠カラサル

將來困窮ニ陷ルコト明カナルニ付(夫人ハ此ノ點ヲ深ク心

配シ居レリ)其ノ際帝國政府ニ於テ其ノ面倒ヲ見テヤルコ

トハ「バ」氏ニ對スル道義ノ一端ナリト思料セラル就テハ

五 アジアの終戦

1187

昭和20年9月3日 在タイ山本大使より

重光外務大臣宛(電報)

バーモウらの消息に關する英國側等への應答

振りについて

バンコク 9月3日後3時00分発

本省 9月3日後10時00分着

第九一號(緊急、館長符號)

石射大使ヨリ

「バーモウ」家族ハ二十八日著盤シタル處「バ」及夫人

ノ願ニテ一同(女婿「ヤンナイン」及家族ヲ含ム)暫ク盤

谷在住ノコトニ決セリ但夫人ハ結局ハ英側ノ手ニ落ツヘ

キコトヲ覺悟シ居ルニ付本使及在「タイ」大使ニ於テ右

在住ノ事實ヲ特ニ隱匿セサルコト(實際上不可能ニモア

リ)トシ夫人之ヲ了承セリ「バンドラウセイン」及家族

ハ數日中ニ歸盤シ「バンドラ」自身ハ當分「タイ」緬國

境邊ニ潛伏スル豫定ナリ(未タ確定セス)

三、「バ」及「バンドラ」ノ所在ヲ飽迄不明ナラシムル爲關係各方面ハ必要アル場合英側等ニ對シ左記要旨ニ基キ應答スルコトニ石射及平岡太佐間ニ協議決定セリ

イ、在緬方面軍ヨリ「バーモウ」ハ日本降伏ノ旨ノ通知

ヲ受ケタル後在佛印家族ニ面會シ度キ希望ヲ以テ隨員數名同伴十七日「タンビザヤ」驛ヨリ出發シタル苦ナ

リ右乗車方法ハ軍ニテ「アレンジ」シタルモ其ノ後ノ

消息ハ軍ニ於テ承知セス云々(右軍側「アレンジ」ハ

「ムドン」在住ノ大臣其ノ他モ承知シ居ルニ付否定シ

難シ)

ロ、「バーモウ」夫人ハ八月二十日迄ニ「ヤンナイン」

カ佛印ノ寓居ニ來リ家族一同速ニ歸緬スヘシトノ夫ノ

傳言竝ニ夫カ「タンビザヤ」驛カラ失踪セル旨ノ消息

ヲ齋セリ依テ「ヤ」引率ノ下ニ八月下旬著盤セルカ夫

ノ所在不明トナリタル爲歸緬ヲ見合セ暫ク滯盤スルコ

トニ決シ在盤中ノ駐緬大使ヲ來訪シ居レリ

ハ、「ヤンナイン」ハ其ノ義父「ムドン」ヲ出發セルカ「タンビザヤ」驛ニテ義父ハ特ニ要

人ハ別ノ計畫アリ茲ヨリ身ヲ匿スヘシ汝ハ印度支那ノ

家族ヲ隨ヘテ歸緬スヘシトテ乗車セス其ノ儘立チ去レリ已ムヲ得ス自分ハ豫定通り列車ニ乗り佛印ニ急行シ義母及家族ヲ引率シ盤谷迄來リ義母ト同居中ナリ

ニ、「ヤンナイン」以外ノ「バ」隨員ハ河内三十一日發歸緬ノ途ニ就キタルカ彼等ハ他用ニテ來盤シタルモノニシテ「バ」及家族ノ動靜ニ付テハ知ル所ナシトノ建前ヲ取ルコト

ホ、石射大使ハ「バ」ノ「タイ」行乗車方ニ付テハ本使モ關與シ居ルカ同人力「タンビザヤ」驛ニテ失踪セル

由ヲ盤谷ニテ「ヤン」ヨリ聞込ミタル處本使ハ「バ」

家族ニ賴ラレ其ノ滯盤中ノ便宜ヲ供與シ居レリ云々

ヘ、從來平岡大佐及本間領事カ「バ」家族ノ世話ニ當リ居リタル事實ハ出來ル丈ヶ之ヲ祕スルコト(同官等ノ訊問ヲ避クル爲)

ト、在「タイ」大使ハ『「バ」ノ行動ニ付テハ知ル所ナ

シ「バーモウ」家族ノ在盤ノ事實ハ承知シ居レリ云々チ、「バンドラ」及家族ノ動靜ニ付テハ「バ」夫人及當館側ハ第一項ノ事實ヲ以テ應酬ス

リ、「バ」夫人一行ノ滯在セル「コンポンチャム」ノ地

名ハ出來ル丈ヶ之ヲ祕シ右ハ「ブノンペン」附近ノ一

部落トスルコト(「バ」ハ右隱家ニテ家族ト面會シタルニ付右隱家ノ所在カ知レレハ家附ノ約十名ノ原地人使用人ノ口ヨリ面會ノ事實發覺スル惧アル次第ナリ)

本件文書ニテ通知セルハ左ノ通り

南方總軍、在佛印軍、西大(以上平岡大佐携行スル筈)緬甸方面軍(同軍ハ幸便ニ托送セリ)「タイ」大及在「タイ」方面軍

西大ヘ轉報セリ

北澤參事官ニ内報セラレタシ

昭和20年9月3日 在タイ山本大使より
重光外務大臣宛(電報)

バーモウの行方に関し英國側の追及急なる場
合の真相伝達につき意見具申

バンコク 9月3日後8時00分発
本 省 9月4日後6時00分着

第一一七號(緊急、館長符號)

石射大使ヨリ

往電第九一號ニ關シ

右往電ノ大體ノ趣旨ハ豫メ「ビルマ」方面軍司令部トモ打合置キタル次第ナルカ其ノ後同軍司令官ハ小細工ヲ弄シテ「バーモウ」氏ノ行衛ヲ隱匿スルモ英側ノ追究ヲ受クル時ハ忽チ破綻ヲ來シ麾下ノ各軍ニ累ヲ及ホスノミナラス延イテハ日本政府モ連座スルコトトナリ我方ノ全面的不信ヲ徹底的ニ暴露シ大局上甚々不得策ナリ衷心ヨリ「バーモウ」氏ニハ氣ノ毒ナルモ此ノ際隱シ立ヲセス必要ニ迫ラレタル場合ニハアツサリト實情ヲ告ゲル方可ナルヘシトノ大乘的見地ヲ取ルニ至リ(一語不明)ノ司令部高木參謀ヲ本使ノ下ニ急派シ來レリ(發電三日着)一方冒頭往電第九一號ノ案ハ幾多ノ缺點ニ満チ英側カ銳ク切込ミ來ルトキハ到底維持シ難キモノニモアリ又「バーモウ」氏カ日本ニ飛ヒタル事實ハ(一語不明)西貢ニテ待機シ所在ノ人々ノ間ニ殆ント公然ニ噂サレ居ル由ヲ確聞セル次第モアリ旁々右往電ノ案ヲ實施ニ移スコト甚々困難ナルヘシト本使自身不安ニ堪エサル所ナリ就テハ當方ヨリ進シテ「バーモウ」氏ノ行先ヲ告クル必要ハナク從テ右往電ノ案ニテ應答スル建前トナシ置クモ英側

ノ追究急ニシテ到底右案ヲ維持シ難シト見極メ付キタルトキハ英側ト接觸スル關係各機關ニテアツサリ事實ヲ認ムルコト已ムヲ得サルヘシト思ハル「バーモウ」氏行衛問題ニ關シ最初尋ネラルルハ恐ラク緬甸方面軍ナリト思ハルル爲同軍司令官ハ本問題ヲ心痛シ高木參謀ノ急派ヲ見タル次第ニテ同參謀ハ當地ニ一兩日滯在ノ上更ニ總軍ニ飛行シ緬甸方面軍司令官ノ右意見ヲ具申スル筈ナリ就テハ中央ニ於テモ本件ヲ更ニ充分御検討ノ上大至急何分ノ議御回電アリ度

1189

昭和20年9月3日

在ハノイ西村事務所長より
重光外務大臣宛電報

仮印における在留邦人保護措置に關し集団自

肅生活に入るべきとの注意喚起について

ハノイ 9月3日後2時00分発

本省 9月6日後2時50分着

合第一三號

公使ヨリ

在留民保護措置ニ付テハ貴官ニ於テ萬遗漏ナク御配慮中ノ

コトトハ存スルモ各方面ノ情報ニ依リ察スルニ現在ノ小康狀態ニ眩惑セラレテ樂觀ニ過キル向ナキヤヲ恐ル爲念本使ヨリ御参考迄注意ヲ喚起シタシ

一、軍ナキ後ノ在留民保護ノ全責任ハ我々ノ双肩ニ懸ルモノニシテ占領軍ニ對シテト雖本責任ノ爲ニハ争ハサルヘカラサル立場ニアリ又從來領事官ノ命令ヲ輕視セル在留民ト雖軍ナキ後ハ領事官ヲ唯一ノ賴ミトスヘク口ニコソ言ハストモ領事官ノ命令如何ニ其ノ身命、財産ヲ委ネ居ルコト在留邦人現在ノ心境ト言フヘク事態切迫スルニ伴ヒ此ノ在留邦人ノ氣持ハ更ニ犇々ト感セラルルニ至ルヘク之ニ對處スル我々ノ保護措置ハ直ニ大所高所ヨリ見タル適切ノ措置タルヲ要スルハ勿論ナルモ此ノ際最モ肝要ナルハ迅速果敢ノ決定ニシテ時期ヲ失スルコトナク即チ拙速ヲ尊フコトナリ依テ既ニ本使ヨリ指示セル在留民ノ集結及引揚ニ關シテハ右顧左眄スルコトナク速ニ實行ニ移サレンコトヲ望ンテ已マス

二、戰前ヨリ土着セル一部邦人以外現在印支ニ在留スル邦人ハ皆直接間接軍ニ依存スルモノニシテ軍ナキ後安住シ得ルモノハ皆無ト言ハサルヘカラス故ニ今後ハ事業ノ清算

ト歸國待機ヨリ外ナキモノニシテ現在之ノ小康狀態ニ眩惑サレ悠々ト曰ヲ過スハ自ラハ喰込ミトナリ現地人ヨリハ反感ヲ招クノミナリ一旦現地人ヨリ反感ヲ受け又ハ攻撃ヲ受クルニ至リタル後ニ自肅スル如キ既ニ遲キヲ以テ一日モ早ク自肅生活ニ入り早キニ及ンテ生活費ノ切詰ヲ爲シ以テ現地人ノ同情ヲ失ハサル様努メタシ其ノ爲ニハ集團簡易生活ニ一日モ早ク入ルコトニシテ本件ハ占領軍ノ到着ヲ待ツ必要ナキコトナリ

三、現地人及現地人官憲カ邦人ニ對シテ親切ニシテ同情ヲ有シ各地治安モ邦人ニ關スル限り安全ナルコトハ全國同様ニ見受ケラレ誠ニ幸ナルコトナルモ右ハ當分ノコトニシテ永續ハ保障ノ限リニアラサルヘシ軍ナキ後ノコトヲ想像スレハ慄然タラサルヲ得ス殊ニ占領軍ノ態度如何ニ依リテハ一夜ニテ惡化スベク又佛人ノ歸來ニ當リテハ更ニ大混亂ヲ來シ其ノ波及スル所邦人ノミ免レテ安居シ得ヘシトハ考ヘラレス故ニ現在ノ小康狀態ニ眩惑サレテ自肅集團生活ニ入ルヲ遷延スルコトナキ様特ニ御注意ヲ望ム^(五)吾々官憲ハ非戰鬪的任務ヲ續行スル要アリテ職場ヲ去ルヲ得サル場合アルモ民間交易團體商社及在留邦人ハ其ノ

使命既ニ終了シ事業ヲ清算シテ歸國ヲ待ツコト以外ニナキコトヲ深ク認識セシムルヲ要ス仍テ領事館引揚迄ハ共ニ居残リヲ希望スル等ノ悠長ナル考ハ此ノ際一掃スルヲ要ス仍テ現ニ領事館ニ事務所ヲ移セル交易團體等ハ清算ヲ急速ニ終結シテ率先シテ自肅集團ニ入ル様御指導ヲ望ム尙商社ニシテ清算モ終了セルニ拘ラス自動車ヲ驅テ現地人ノ反感ヲ招キ居ル向アリ特ニ御注意相成度

四、要スルニ拙速主義ニ依リ直ニ自肅集團生活ニ入ルコト此ノ際絶對ノ急務ニシテ其ノ音頭ヲ取ルモノハ吾々官憲ノ他ナキニ付日本人會ノ自治ニ委ヌル等ノ生溫キ方法ニ依ラス領事官自身積極的ニ命令スルノ方法ニ依リ迅速果敢ニ御取運アランコトヲ望ム其ノ實際問題トシテハ學童ヲ中心トスル保護者連ノ集團生活ヲ先ツ始メ次イテ交易團體商社等ニ及フ方法モアルヘク集團ハ一ヶ所トスルヤ又ハ數ヶ所トスルヤ等アルヘキモ之ハ夫々ノ現地事情ニ依リ決定スヘキコトナリ

尙土着其ノ他ノ一部殘留希望及朝鮮臺灣同胞ニ關シテハ夫々特殊ノ考慮ヲ加フヘキハ勿論ナリ

本電宛先 西貢、「ユエ」、「ブノンペン」、海防

大臣へ轉電セリ

1190

昭和二十年九月四日

在ハノイ西村事務所長より
重光外務大臣宛(電報)

ベトミンからの要求事項など仏印情勢につき報告

別電 昭和二十年九月五日発在ハノイ小長谷(綽)事

務所長代理より重光外務大臣宛第一四号

停戦協定成立までの暫定措置について

ハノイ 9月4日後0時40分発

本省 9月7日後7時00分着

第三三號

往電第二〇號ニ關シ

越盟ノ動向ヲ中心トスル其後ノ狀況大要左ノ通

一、越盟假政府ハ八月三十一日附塚本公使(Chef ne la

Mission ト記ス)宛書翰ヲ以テ同政府ハ不取敢河内ヲ所在

地トシ各省大臣任命セラレタルニ付右政府ニ總督府ヲ明

ケ渡サレタキ旨申越セリ

二、印度支那銀行ニ對シ八月三十日越盟代表者出頭シ日本側

監督ト列シテ越盟監督ヲ置キ相方ノ署名ヲ要スルコトト

シ度キ旨ヲ要求セルニ付我方ノ措置トシテ之ヲ承認セシ

メ置ケリ

三、以上ノ他數日來總督府各外局ニ對シ越盟ヨリ事務引繼要
求シ來レルニ對シ我方トシテハ別電第二四號ノ趣旨ニ依
リ適宜措置シツツ停戦協定後ノ引繼ノ準備ヲ進ツツアリ
四、河内ニ於テハ冒頭往電第二〇號聯合國代表歡迎ノ準備ハ
華々シク進メラレ二日別電第二五號(省略)ノ次第ニテ大示威運
動行レタリ

吾、「ユエ」ニ於ケル情勢横山顧問ヨリノ報告ニ依レハ大要
左ノ通

(イ) 横山顧問ト越盟首腦者八月二十七日會談ノ際同人ハ越
盟ハ今後對日態度ヲ一變シ極メテ友好的關係ヲ維持シ
度キ希望ナル(以下三十語解譯不能問合中ナルモ不取
(編注)敢)モノト考ヘラル旨等ヲ語レル趣ナリ

(ロ) 横山顧問ハ「ユエ」ノ情勢ハ大混亂ニ陷ル危險尠キコ
ト竝ニ軍引揚迄ハ越盟トノ關係調整ノ要モアリ最後迄

「ユエ」殘留ニ決セル由ナリ

別電ト共ニ西貢へ轉電セリ

編　注

訂正報により脱字箇所は以下のとおり修正された。

「…コト竝ニ獨立維持ノ了解ヲ或程度迄聯合國側ヨリ

取付ケアリ佛ニ對シテモ全國民ノ蜂起ヲ切掛ケトシ交

渉ノ活路ヲ見出タシ得ル…」

ニ引繼ク迄日本側ニテ之ヲ管掌ス
西貢へ轉電セリ

(別　電)

ハノイ　9月5日後0時57分発

本省　9月7日後3時13分着

第二四號
塚本公使ヨリ

當地軍側停戰命令發令以後停戰協定成立ニ至ル間ノ暫定的
措置トシテ諸般ノ考慮ヨリ左ノ方針ニ依リ居ルニ付御參考
迄

一、停戰協定成立迄總督府ハ依然日本側ニテ管掌スル形式ヲ
持續シ且所要ノ引繼準備ヲ行フ

二、右時機ニ至ル迄越南側ニ於テ各局長以下任命シ來レルモ
右ニ對シテハ第三項ヲ除キ實質的ニハ之カ運營ニ當テシ
メ置クモノトス(鐵道、通信、船舶ニ關シテモ同様)

三、總督、總務長官、財務局及印度支那銀行ニ付テハ聯合國

1191　昭和20年9月5日　在ハノイ西村事務所長より
重光外務大臣宛(電報)

停戰協定成立までの日本側措置に關する中國

軍指令について

ハノイ　9月5日後0時57分発

本省　9月7日後4時10分着

第三二號

重慶軍ノ求メニ依リ二日蒙自ニ赴ケル軍參謀一行ハ盧漢ト
會見覺書第一號乃至第五號ヲ受領シ三日歸來セル處右覺書
中政務關係ノ部分大要左ノ通

一、支那軍到着迄ハ日本軍ニ於テ治安維持ニ當リ行政機關ノ
支那側代表又ハ其ノ指定者以外ニ引渡ササルコト

二、捕虜及抑留者ヲ直ニ釋放ノ上充分保護ヲ加ヘテ指定地點
送達ノ準備ヲ爲スコト

三、河内附近日本軍ハ支那軍前進二四時間前ニ河内市内五〇
粅以外ニ撤退但シ憲兵其ノ他ハ治安維持ニ當リ同時ニ民

衆ノ示威運動ヲ禁止スルコト

四、支那軍進駐部隊糧秣ハ日本軍ニ於テ責任ヲ以テ補給スル

コト

尚軍側ヨリノ情報ニ依レハ當地方面接收ニ關シテハ支那

側カ絶對的指導者ノ地位ニ立ツモノノ如ク米軍將校ハ前

記會見ニモ立會フノミニシテ何等ノ發言ヲ爲サス又支那

側先遣將校ニシテ當地ニ兩三日前ヨリ滯在中ノ者ヨリ總

督府ヲ路漢ノ司令部ニ充ツヘキ旨申出タリ此ノ間米、佛、

支、越盟相互ニ復雜ナル動キヲ示シツツアルモノノ如シ

停戰協定期日ハ不明ナルモ支那軍隊（一五箇師）進駐ハ洪

水ノ爲多少遲延スヘキニ付或ハ數日後代表團ノミ飛來シ

テ協定締結ニ至ルヤモ知レサル趣ナリ

西貢ヘ轉電セリ

1192

昭和20年9月6日

在タイ山本大使より
重光外務大臣宛（電報）

英印軍による印度国民軍の取扱いにつき光機

閥長の内話について

バンコク 9月6日後8時00分発

本省 9月9日後7時00分着

脱（館長符號板、極祕）

蜂谷公使ヨリ

光機關長ノ内報ニ依レハ去ル四日英印軍將校（印度人英人）

ハ英印軍側ノ代表トシテ印度國民軍代表「ボンスレー」參

謀長ニ對シ貴官等ノ立場ニ對シテハ英國皇帝ニ於テ寬大ナ

ル思召アル趣ナリトテ同國民軍ノ武器引渡及將校ノ肩章取

外シヲ要求セル處「ボ」ハ自分等ハ日本ノ強制ニ依リ戰ヒ

タルニ非ス又日本軍ハ降伏セルモ國民軍ハ未タ降伏シ居ラ

ストテ之ヲ拒否シタルカ其ノ後更ニ先方ヨリ若シ聽カサレ

ハ叛亂罪等ニ問ハルヘシトノ注意ヲ受ケ結局九月三日迄ハ

舊國民軍トシ同日以降ハ捕虜トシテノ取扱ヲ受クルコトニ

妥協成立セル趣ナリ

尚同機關長ノ意見ニ依レハ印度國民軍ハ其ノ編成ノ當初舊

英國印度軍投降者ノ一部カ參加シタル關係上今後問題トナ

ルヘキ惧レアル處我方ハ本來印度國民軍ノ印度國內獨立分

子ト呼應シテ大東亞戰爭ノ完遂及印度獨立ヲ一舉ニ達成セ

ントノ念願ヨリ日本軍ノ進駐ト共ニ馬來在住印度人義勇兵

應募者及英印軍投降者中同運動ニ自發的ニ協力セント欲シタル者ニ依リ「ボース」主班統制下ニ編成セラレタルモノニシテ日本軍ニ於テ之カ援助ヲ與ヘタルニ外ナラス從而我方トシテハ之等ノ協力者ハ大東亞解放ノ政治、軍事上ノ目的ニ顧ミ捕虜ト看做ササリシモノナリトノ見解ノ下ニ今後必要ニ應シ應答セントストノ趣ナリ

1193

昭和20年9月6日

在タイ山本大使より
重光外務大臣宛(電報)

タイにおける終戦措置の経緯やその後の動向
につき報告

付 記 昭和二十年九月六日発在タイ山本大使より重光外務大臣宛電報第一三二号
右電報の続き

第一三〇號(至急)
終戦以後ニ於ケル「タイ」國情勢左ノ通り
一、「タイ」ノ終戦措置

往電第八二六號所報ノ通り「タイ」側ニ於テハ本使總理會談ニ基キ終戦措置ニ關シ獨自ノ立場ヲ取ルコトニ決シ十六日攝政ハ人民議會ノ承認ヲ經「タウイ」副總理ノ副署ヲ以テ「タイ」ノ對米英戦無效ノ宣言ヲ發表セリ右宣言中「タイ」ノ對米英戦争ハ自發的意思ニ依ルモノニアラスシテ日本ノ強制ニ餘儀ナクセラレタルモノナルコトヲ示唆スルト共ニ日本ト共同戦争ニ從事スル他面米英ニ對シ國家的協力ヲ爲スニ努力セル旨ヲ指摘シ居リ極メテ得手勝手ナル申分ナカラ中立維持ノ傳統ヲ堅持シテ僅ニ獨立ヲ保全シ來レル小國「タイ」トシテハ斯クノ如キ二面外交及申開キモ自國ノ獨立ヲ維持シ戰爭終末ヲ有利ニ解決スル爲ニハ餘儀ナキ措置ナリシト思考ス此ノ點ニ付テハ其ノ後總理、外相其ノ他政府要路ノ人々カ本使ニ對シ繰返シ日本側カ「タイ」側ニ對シ終戦ニ關シ獨自ノ措置ヲ取ルコトニ異議ヲ唱ヘサリシコトニ付感謝ノ意ヲ表スルト共ニ本件宣言ノ内容及皇室從來ノ「フリーテイ」運動ニ付テハ日本側トシテハ不満ナルヘキモ現下ノ情勢トシテ同情アル理解ヲ得タシト再三已ムヲ得サル事

前記ノ措置ニ對シテハ米國國務卿ハ終戰措置ハ「タイ」ノ意思ニ依リ爲サシメ宣戰ノ廢棄ヲ容認スル點ノ「ラヂオ」放送ヲ爲シ又英國外務大臣ハ二十一日下院ニ於テ右和平宣言ニ對スル英國ノ態度ハ今後ノ聯合國側ノ終戰處置ニ對スル「タイ」ノ態度ニ依リ決セラルヘキ旨說明セリ

右攝政ノ宣言ニハ「アパイウォン」總理ノ副署ナク自由「タイ」ノ同情者トシテ知ラル副總理「タウイ」文相ノ副署アリタルヲ以テ本件措置ハ在米英ノ自由「タイ」領袖ト聯繫ノ下ニ行ハレタルモノナリヤヲ疑ハシタルカ（往電第八二六號本使首相會見ノ際總理ハ終戰措置ニ關シ在瑞西「タイ」國公使ヲ通シ「セニー」駐米公使ニ連絡スル豫定ナリトテ本使ノ意見ヲ求メツツ今後大ニ「セニー」ヲ活用スル意圖ヲ有スル旨ヲ仄カシタリ）果シテ二十一日「タイ」政府ハ「ブリディ」攝政及「セニー」駐米公使（自由「タイ」領袖トノ間ニ終戰措置ニ關スル「メツセージ」交換ノ次第ヲ發表セリ

右發表ニ依レハ「ブ」攝政ハ瑞西駐在「タイ」公使經由電信ヲ以テ「セニー」駐米公使ニ對シ戰爭繼續中同公使

カ國外同志ヲ糾合シテ戰爭反對及聯合國側作戰援助ノ實ヲ舉ケ以テ米國ヲシテ「タイ」ノ和平宣言ヲ容認シ「タイ」國ノ中立ヲ保障スルノ態度ヲ表明セシムルニ與リテ力アリタル功績ヲ賞讚シ之ニ對シ「セニー」公使ヨリ在外「タイ」人等ノ和平工作ト之ニ對スル米英諸國ノ援助ノ事實ヲ述ヘ今回日本ノ降伏ニ依ル和平出來シ「タイ」國力深刻ナル戰禍ヨリ免レ獨立ヲ保全シ得ルニ至レルコトヲ慶賀スルノ「ラヂオ」放送ヲ爲シタル次第カ明カニサレ居レリ

尙蒋介石ハ八月二十五日國防最高委員會中央常務委員會ニ於ケル演說中東南亞細亞地域ニ對スル態度ヲ表明セルカ「タイ」ニ關シテハ其ノ對米英宣戰ハ日本帝國主義ノ壓迫ニ基クモノナレハ戰後ハ「タイ」固有ノ獨立ト平等ヲ回復シ中「タイ」間ノ正常ナル友好關係ヲ樹立センコトヲ希望スル旨言明セリ右ニ對シ「ブ」攝政ハ「ラヂオ」放送ヲ以テ之ニ應ヘ「タイ」華兩國ノ親善關係ヲ切望スル旨並ニ戰爭中自由「タイ」工作員ニ對スル中華民國側ノ聲援ヲ謝スル旨述ヘ居レリ「タイ」華關係ハ既報ノ通「タイ」國ニ於テハ重大問題ノ一トシテ取扱ハレ居リ且

内心相當不安ヲ有シツツモ表面ハ斯ノ如ク極メテ巧妙ニ措置シツツアリ

以上ノ如キ「タイ」國ノ終戦措置及今後ノ聯合國側對「タイ」態度緩和ノ爲ノ豫備工作ハ全面的ニ「タイ」官民ニ依リ感謝ト好感ヲ以テ迎ヘラレ居リ又瑞西御留學中ノ皇帝モ「プ」攝政ニ對シ二十八日其ノ和平措置ヲ嘉賞スルノ親電ヲ發セラレタル趣發表アリタリ

二、政府ノ更迭

「プ」攝政ノ和平宣言ノ翌十七日「アパイウォン」總理ハ内閣總辭職ヲ決行セリ右ハ「ア」内閣カ對日協力ヲ主トスル所謂戰時内閣ナリシ關係上終戦ト同時ニ更迭スヘキナリトノ見解ヲ堅持スルニ依ルモノニシテ人民議會方面ノ留任方ノ強キ要望ニ拘ハラス翻意セサリシ次第ナリ後繼内閣ニ付テハ「プ」攝政ヲ主動力トスル終戦措置振ヨリ見テ自由「タイ」首領「セニー」ノ意嚮カ最モ尊重セラレ現ニ「シーセバ」外相モ本使ニ對シ議會ニ於テモ「セニー」内閣ノ總理タルコトニ内定セル旨内話シタル程ナリシカ其ノ後「セニー」公使ノ歸國長引キタルコト留學中ノ皇帝ニ對シ成ル可ク速ニ歸國方奏請中ナリシテ

ト及東京ニ於ケル終戦調印ト相俟テ九月二十八日聯合國側ノ先遣部隊ノ盤谷進駐開始等ノ事情モアリ旁「セ」トモ連絡ノ上急遽「タウイ」文相ヲ後繼内閣首班ニ推シ九月一日頃人民議會ヲ緊急ニ開會シ新内閣ヲ信任投票ニ問ヒ全會一致通過茲ニ「タウイ」内閣成立シタル次第ナリ（往電第一〇一號參照）

新内閣ノ施政基本方針ハ既電ノ通

（一）嚴ニ民主主義ニ立脚ス（二）八月十六日ノ和平宣言ノ趣旨ヲ遵守ス（三）聯合國側ト飽迄モ協力シ各國トノ友好關係ヲ維持シ世界ノ安定確保ノ爲桑港世界憲章ニ基キ努力ス（四）國內ノ治安維持ノ犯罪防止土氣ノ昂揚ニ最善ノ努力ヲ爲スヘキ旨ヲ明カニセルカ議會ニ於ケル質疑應答ノ間ニ現ハレタル新總理ノ説明中新内閣ハ進駐シ來ルヘキ聯合軍トノ間ニ起ルヘキ當面ノ諸問題ノ解決ヲ最モ重要任務トスル中間内閣タル旨ヲ暗示セル點ヨリ又總理カ外務衛生文部農務大臣ヲ兼攝スル外主要各僚中「ディレツク」藏相カ拓相ヲ「スープ」内相カ商相ヲ「サブラン」工業相カ工礦相ヲ夫々兼攝セルノミナラス無任所大臣トシテ「ピブン」政權時代重慶潛入ヲ噂サレタル「サグオン」

(元煙草會社支配人「プ」攝政直系)及「アパイウォン」内閣成立直後雲南潛入ヲ噂セラレタル東北選出代議士「タウイン」(現在迄消息不明ナリシニ不拘突如入國シ居ル等ノ事實ヨリ「セニー」公使歸國後更メテ總理又ハ外相トナルカ皇帝歸國ノ上「プリヂー」カ總理トナリ其ノ下ニ外相等ノ要位ヲ占ムルコトトナルニアラスヤ)豫想セラル處何レニセヨ新内閣ハ「ア」内閣カ對日協力ヲ標榜セルト異リ名實共ニ聯合國側トノ協力ヲ主眼トスル所謂自由「タイ」政府トシテノ政策ヲ明白ニシタル點ハ疑ヲ容レサル所ニシテ結局ハ「タイ」ハ同盟國日本ノ感情ト面子ヲ刺戟スルコト無ク終戰措置ノ間ニ巧ニ日本トノ共同陣營ヨリ離脱シ聯合國ノ準與國トナルノ工作ヲ極メテ巧妙ニ敢行シツツアリト謂フヘシ從テ聯合國側ハ「タイ」ニ對シテハ案外寛大ナルヘキヲ豫想シ得ルモ他面「タイ」ノ對日態度ハ聯合國側ノ歡心ヲ買ハンカ爲自ラ進ンテ或ハ聯合國側ノ壓迫ニ依リ今後急轉スヘキコト豫期セサル可カラス現ニ既電ノ通り九月三日外務次官力館員ニ對シ聯合國ハ或ハ日「タイ」外交關係斷絶ヲ「タイ」ニ要求シ來ルヤモ知レスト内話シタルモ右ハ本使カ

此ノ前攝政ニ會見セル際同人ノ言辭又ハ前總理其ノ他政府要人各人ノ最近ニ於ケル言動ニ徵スルモ「タイ」ノ外交部ハ素ヨリ政府首腦部ノ間ニハ聯合國側ノ壓迫ニ依リ曰「タイ」兩國ノ關係斷絶不可避ヲ既ニ豫想シ居ルニ非セヤト思考セラル(本使トシテハ帝國ノ終戰措置以來再三「ア」總理及「シ」外相ニ對シ日「タイ」兩國友好關係ノ維持増進ヲ強ク要望シ來レルハ既報ノ通ナリ)

(付記)

バンコク 9月6日後4時00分発
本省 9月11日前8時50分着

第一三一號(至急)
三、官民ノ態度

元來「タイ」國民一般ノ間ニハ交戰國タルノ意識稀薄ナリシ爲「タイ」國特ニ盤谷カ大ナル戰禍ヲ蒙ラサル裡ニ戰爭終結ニ至リタルヲ何ヨリモ欣ヒ居リ而シテ既電ノ通り終戰直後聯合國側ノ對「タイ」態度明カナラサリシ間ハ「タイ」側終戰措置ニ關スル我方ノ理解有ル態度竝ニ我軍民ノ公正ナル態度ニ對スル感謝ト好感モアリ我方ニ

對シ一般ニ同情的態度ヲ示セリ殊ニ一部知識層間ニハ日

本皇室ノ尊嚴竝ニ一旦利有ラス敗ルル秋ハ靜ニ戈ヲ收メテ裁キヲ俟ツノ日本民族ノ態度ニ對シ深ク敬意ヲ表スル風アリタリ其ノ後聯合國側ノ態度ヲ窺知シ得ルニ至ルヤ一般特ニ政府要路者ハ表面日本ヨリ遠去カルノ方針ヲ採ラントスルモノノ如ク最近警察當局カ一般「タイ」人ニ對シ日本軍ヨリ如何ナル形式ヲ以テスルヲ問ハス物品ノ讓渡ヲ受ケタル場合遲滯無ク警察ニ届出ツルコトヲ要スル旨示達セルカ右ハ蘭貢豫備協定ニ基ク皇軍ノ物資移動禁止ニ關聯スル所ナルヘキモ更ニ一般「タイ」人ノ日本人トノ接觸ヲ制限セントスル意向ニ出テタルモノト認メラル今後聯合國軍多數進駐シ來ルニ伴ヒ「タイ」ノ聯合國的傾向ハ漸次鮮明トナリ其ノ對日態度モ自然硬化スヘク或ハ勢ノ趨ク所遂ニハ前記外交關係ノ斷絶及在留民ノ引揚迄發展スル惧ナシトセス右ニ關シテハ本使ニ於テモ隨時「タイ」側ト懇談ヲ爲シツツアルモ要スルニ近ク倫敦ニ於テ開カルヘキ外相會議ニテ「タイ」國ニ關スル聯合國ノ態度決定ノ際當然此ノ種問題ヲ審議セラルヘキヲ以テ貴大臣ヨリ「マツクアーサー」ヲ通シ聯合國側ノ好

意的考慮ヲ促ス様御高配相煩度

次ニ在「タイ」華僑ノ動向ニ關シテハ既報ノ如ク一時戰勝的昂奮ノ爲若干ノ「テロ」行爲等アリタルモ其ノ後「タイ」側ノ彈壓方針闡明、蔣介石對「タイ」和戰政策等ニ依リ漸次平靜ニ復シ共產系分子ノ地下運動ハ別トシ商店街等ノ外貌竝ニ一般華僑ノ「タイ」人及邦人ニ對スル態度ハ平靜ニ復シツツアリ尤モ「タイ」國政府當局者ハ重慶政府カ軀テ當國ニ外交機關ノ開設ヲ要請シ來ルヘク其ノ曉ニハ二百五十萬乃至四百萬ノ當國內華僑ノ態度ハ再ヒ傲慢トナルヘシトテ今ヨリ極メテ重大ナル關心ヲ示シ居レリ

一般治安ハ必シモ大ナル改善ヲ見サルモ終戰當初頻發セル惡性「テロ」及強盜事件ハ民心平靜ニ歸スルト共ニ激減セリ然レトモ竊盜ノ類ハ依然多ク邦人工場、商社等ノ閉鎖及「タイ」國軍隊ノ復員ニ依ル失業者增加ハ今後一般ノ生活不安及社會不安ヲ一層激増セシムルモノト豫想セラレ殊ニ日本軍武裝解除後ノ事態ハ警戒ノ要アリト

四、在留邦人關係

前記諸問題ノ外最モ注意ヲ要スルハ在留邦人ノ激増ト邦人企業ノ整備繼續問題ナリ

在留邦人激増ノ原因ハ緬甸ヨリノ轉進者ノ當地在留及終戰ニ依リ解除セラレタル軍屬ノ身分切替ノ結果ニシテ從來ノ當地在留民一〇〇〇名餘リニ對シ更ニ三〇〇〇弱ノ增加ノ見込ナリ

次ニ邦人企業整備ノ問題ハ戰爭中邦人經營ノ各社工場ハ多ク軍管理又ハ軍納品製造ヲ理由トシテ「タイ」側ノ正規ノ營業許可手續ヲ完了シ居ラサリシヲ以テ今回之ヲ民需工場トシテ切替フル要アル處「タイ」側ニテ之ヲ認メサル場合ハ閉鎖ノ已ム無キ立場ニ在リ本件ニ關シ「ア」

内閣當時ヨリ再三「タイ」政府ノ好意的考慮ヲ要請シ來レリ然ルニ右二問題中軍屬等身分切替ニ關シテハ新内閣トナリテヨリ移民局ハ新ニ何分ノ處置ニ出テントスルモノナルカ如ク更ニ新内閣ハ或ハ之等案件處理ニ關シ寧ロ聯合國ノ壓迫ヲ理由トシ對日關係ヲ自國ニ有利ニ處理セントスル意嚮無キヲ保シ難ク今後之等ノ問題ニ關シ我方ハ意外ニ峻嚴ナル取扱ヲ受クルコトアルヘキヲ覺悟セサルヘカラス

五、日本軍隊ノ處理

終戰後ノ「タイ」國內駐屯約十萬ノ皇軍ノ處理ハ總テ聯

1194

合國側ノ指示ニ俟タサルヲ得サル所ナルモ他面現在問題トナリツツアル一三ノ點ヲ擧クレハ衛生部隊ノ現狀維持方ニ關スル「タイ」國政府及同赤十字社ノ斡旋僻陬、地方在留部隊ノ移動及給與ニ關スル「タイ」國地方官憲ノ協力、全軍ノ武裝解除等ニ關シ名譽尊重等ナリ之等問題ニ關シテハ本使ヨリモ「タイ」國政府ノ斡旋協力方屢次要請シツツアリ

昭和20年9月7日
在タイ山本大使より

終戦処理に関するタイ国藏相との会談について

パンコク 9月7日後3時00分発
重光外務大臣宛電報

本省 9月9日後7時00分着

第一三四號(大至急)
貴電第一〇九號ニ關シ

終戦ニ基ク諸問題ニ關シ忌憚ナキ意見交換ヲ遂ケ置カソカ
爲新内閣成立後「タウイ」總理兼外相ニ會見ヲ申入レタル
カ内外情勢機微ナルニ鑑ミ「タイ」側ニ躊躇ノ色アリタル
ヲ以テ六日「デイレツク」藏相ヲ非公式往訪新内閣ノ成立

ニ祝意ヲ表シ終戦ニ關シ聯合國トノ關係カ圓滑ニ進行シアルハ同慶ノ至リニテ日本トシテハ唯々「タイ」國カ獨立國トシテ發展センコトヲ祈念シ「タイ」國ノ靜謐ヲ亂スコトナシ「タイ」國內日本軍隊降伏條件其ノ他終戦措置ヲ平穩且圓滿ニ實施セントスルニシテモ之カ爲ニハ必要ニ應シ凡ユル支援ヲ惜マサル旨ヲ述ヘタル處「デイレツク」ハ自分ハ勿論政府トシテモ内心ニ於テハ日本トノ友好關係維持ノ氣持ハ不變ナルモ現在聯合國特ニ英國ノ出方カ不明ナル爲「タイ」ノ獨立保持上種々苦慮シアル旨ヲ述ヘ今後日本側ニ取り不快ナル措置ニ出ツルヤモ知レサルカ右ハ全ク聯合國ノ壓迫ニ依ルモノナルニ付豫メ御諒承請フト述ヘタリ依テ本使ヨリ曰「タイ」外交關係斷絶ニ言及過去ニ於テ一
點ノ汚點無キ兩國關係ヲ何トカシテ維持スル様此ノ上トモ御盡力アリ度右ハ日本政府ノ強キ希望ナル旨ヲ述ヘ且聯合國ノ壓迫如何ニ依リ大使館ノ「ステイタス」等カ問題トナルカ如キ場合ニハ本使トシテ前記前提ノ下ニ出來得ル限り善處スヘキ用意アルニ付遠慮ナク豫メ眞意ヲ連絡アリ度シト語リタル處「デイレツク」ハ良ク諒解セリ今後本件ニ關シ聯合國側ヨリ何等申出アラハ内密ニ連絡スヘシト答ヘタ

リ

次ニ戰爭犯罪人問題ニ言及シ今日戰爭犯罪人トシテ噂セラ
レツツアル「タイ」要人ハ何レモ「タイ」國ノ獨立維持ノ
爲盡シタル愛國者ナルヘシ旁今後若シ「タイ」國內ニ於テ
審理セラルルカ如キコトトモナラハ右御含ミノ上寛大ノ措
置ニ出テラルルコト希望ニ堪ヘスト述ヘタル處「デイレツ
ク」ハ近ク聯合國側ヨリ本件ニ關スル委員カ來「タイ」ス
ル筈ニシテ恐ラク共同審理ノコトトナルヘシ其ノ際萬事思
フ様ニハナリ難カルヘキモ御話ノ點ハ考慮シ置クヘシト語
リタリ

右會談ヲ通シ「デイレツク」ハ「タイ」國ハ小國ニシテ其
ノ獨立保全ノ爲ニハ心無キ措置モ取ラサルヲ得ストテ繰返
シ其苦衷ヲ述ヘ日本ニ對スル心情ハ從來ト變リ無キモ表面
ハ種々面白カラサル事實トシテ現ルルコト尠カラサルヘキ
モ其ノ邊惡シカラス御了承ヲ得度本會談ハ一々總理ニ報告
連絡スヘシト語リタリ

戰爭犯罪人と指定されうる「大東亜」各國要

人の責任を日本側で引受けるべき旨意見眞申

バンコク 9月8日後3時00分発

本省 9月9日後5時40分着

脱號(大至急、館長符號扱)

往電第一三四號ニ關シ

本使ヨリ戰爭犯罪人問題ニ言及セル際「デレツク」藏相ハ
斯カル人々ハ何レモ日本ノ壓迫ニヨリ餘儀ナク協力セルモ
ノナリトノ建前ヲ採リ差支ナシトノ御意嚮ナリヤト冗談交
リニ述ヘ居タリ

惟フニ「ビイジット」大使及「タイ」國內親日要人ノミナ
ラス「バーモウ」「ラウレル」其ノ他東亞ノ聯邦各國ノ指
導者ニシテ戰爭完遂ニ協力セルカ爲聯合國側ヨリ戰爭犯罪
人トシテ糾撻セラルルカ如キ場合彼等ノ所爲ハ自國及自國
民ヲ思フ一念ニ出テタルモノナルコトヲ我方ヨリ申出ツル
コトニヨリ果シテ幾許ノ效果アリヤハ疑問ナルヘシ

揚ノ爲ニハ考慮ニ值スル問題ナリト思考シ御考究中ノコト
ト存スルモノ爲念

~~~~~

1196 昭和20年9月8日

在タイ山本大使より  
重光外務大臣宛電報

連合国の要求に従いタイ側より日本大使館機  
能停止の旨伝達について

バンコク 9月8日前10時30分発  
本省 9月8日後5時00分着

第一四三號(緊急)

七日「ワンワイ」殿下本使ヲ來訪豫テ「セイチヨウ」島  
「カンデエ」ニ於テ「タイ」國ト聯合國間ニ行ハレ居リタ  
ル兩軍事當局間交渉中「タイ」側ハ聯合國側要求ニ依リ遺  
憾乍ラ在「タイ」日本大使館ノ機能ヲ一時停止スルノ已ム  
ナキニ至リ右ハ八日頃調印ノ見込ナル處六日ノ本使「ディ  
レック」會談ニモ鑑ミ總理兼外相ノ命ニ依リ特ニ内報スル  
次第ナリト述ヘタルヲ以テ本使ハ右ハ日「タイ」間外交關  
係ヲ斷絶スルモノニアラス單ニ一時的大使館機能ヲ停止ス  
ルニ過キサルモノト了解スト述ヘタル處「ワンワイ」ハ其

ノ通ナリ而シテ右決定ハ單ニ「タイ」國ト聯合國側兩軍事  
當局間ノ交渉ノ結果ニシテ最終的ニハ「タイ」國政府ト聯  
合國側トノ交渉ニ依リ確立セラルヘシト述ヘタリ  
依テ本使ヨリ從來屢々申進メ置キタル通日本トシテハ過去  
ニ於テ穢ナキ日「タイ」關係ノ持續ヲ衷心希望スルモノナ  
ルニ付今後ノ交渉ニ於テモ外交關係ノ斷絶ニハ至ラサル様  
總ユル盡力ヲ願ヒ度シト述ヘタル處「ワンワイ」ハ貴意ニ  
添フ様最善ノ努力ヲ爲スヘシト語レリ  
次テ本使ハ現在總ユル終戰措置ノ平穩且圓滑ナル遂行ト在  
留民ノ保護ニ專心シアルモノニシテ右二點ニ關シテハ當然  
引續キ交渉ヲ續行シ得ルモノト思考スル旨念ヲ押シタルニ  
「ワンワイ」ハ之ヲ諒承セリ

~~~~~

1197 昭和20年9月8日

在タイ山本大使より
重光外務大臣宛(電報)

ビルマ閣僚の動向などにつき報告

バンコク 9月8日後3時00分発
本省 9月9日前0時00分着

第一四五號(緊急、館長符號扱、絕對極祕)

石射大使ヨリ

「バンドラ、ウセイン」ハ「バーモウ」氏ノ命令ノ如ク最初ハ在「ムドン」ノ各大臣ト行動ヲ共ニスル考ヘナリシモ各大臣連カ英側ヨリ如何ナル取扱ヲ受ケルヤヲ見定ムル迄暫ク「タイ」國內又ハ緬甸内ニ潜伏スルコト可然ト本使ヨリ「サジエスト」シタル結果當地ニテ姿ヲ消シタル次第ナルカ「バンドラ」隠匿方ヲ引受ケタル緬甸人間ニ意見ノ相違ヲ生シ「ビトレ」サルル惧アルカ爲兩三日中ニ矢張リ赴緬シ暫ク潜伏スルコトトセル由ナリ右「バーモウ」氏ニ

御説明置ヲ請フ

二、各大臣ハ引續キ「ムドン」ニ在ル由ナルカ七日午前十時半(「タイ」時間)「デリー」放送ハ「タキン、ヌー」「オンサン」「タキン、タントン」等ノ消息ヲ報シ居レリ爲念御注意迄

三、「バーモウ」夫人一行ハ今ノ處平穩ニ暮シツツアルモ大分宿所注目ヲ引キ居リ近日中ニ移民法ニ依リ居住届ヲ爲サシムル考ヘナリ同夫人同意ス

四、在「モールメン」日本軍ハ英軍ノ妙策ニ依リ東徑九七度四五分ノ線以テ東「アタラン」河右岸ノ地帶ヲ撤退シ森

軍司令部ハ「ムドン」ノ東方ノ一村落ニ移レリ「タイ」

緬鐵道ハ猶我軍ノ手ニテ運行セラレアルモ之ニヨル部隊ノ移動ヲ差止めラレ軍連絡員ノ來往モ次第ニ窮屈トナル傾向アリ

北澤參事官ニ内示セラレタン

~~~~~

1198  
昭和20年9月8日

在サイゴン河野事務所長代理より  
重光外務大臣宛(電報)

### ベトミンと仏国との衝突事件につき報告

サイゴン 9月8日前11時00分発

本省 9月8日後6時00分着

第六〇號

越盟政權南部行政委員會ニ於テハ豫テ越南共和國獨立宣言日決定シ且東南亞細亞聯合軍先遣委員到着豫定日タリシ九月二日示威ト歡迎トヲ兼ネタル民衆大會及革命軍ノ市中行進ヲ行ハシメタル處其ノ終了間際タル午後五時頃ヨリ八時頃ニ亘リ市内數ヶ所及西貢「カトリック」司教事務所ニ於テ安佛衝突發砲事件發生シ日本警備隊ノ出動ヲ見タルカ死者佛人二安南二〇負傷者佛人二安南一二〇日本二アリタ

リ尙其ノ際日本人四及日本軍人一ハ掠奪ニ遭ヒ他ニ英國人

俘虜五ハ襲撃ヲ受ケ別ニ武器隠匿ノ嫌疑ニテ多數佛人逮捕

セラレタリ

當日行政委員會ハ市民ニ對シ赤地ニ黃星ノ新國旗ヲ中心ニ

米英蘇支ノ國旗ヲ掲揚セシメタルカ佛側ノ懇請ニ拘ハラス  
佛國旗ハ掲揚セス「打倒佛帝國主義」「獨立カ然ラスンハ

死」等ノ「バンドロール」モ掲揚セラレ佛側ヲ刺戟シ居リ  
タル模様ナリ本事件ノ真相ハ何レカ挑發シタルヤ未タ不明

ナルモ越盟從來ノ反佛態度ト時局ヲ有利ニ導カンカ爲ノ佛  
側ノ或種策動ニ基クモノニアラスヤト思料セラル

本件ニ關シテハ「マウントバツテン」司令部側ヨリ我方ノ  
責任ヲ追求シ來リ我方警備責任者ノ處罰越盟側責任者ノ抑

留革命軍ノ解散方ヲ要求セルカ軍當局ニ於テハ儼然タル治  
安維持措置ニ出ツルト共ニ革命軍ニ解散ヲ命シ佛人抑留者  
ヲ釋放セシメ民間ノ武器回収ヲ爲シ一應平靜ニ歸セリ  
河大ニ轉電セリ

タイでの連合軍指令に関し現地事情への考  
慮を連合国側へ申入れ方要請

バンコク 9月10日前7時00分発

本省 9月10日後5時00分着

第一五五號(緊急)

在「タイ」聯合軍代表ヨリ義集團ニ對スル指令ハ兎角軍政  
地域ニ對スル一般指令ニ出テ當國ノ特殊事情ヲ考慮ニ入レ  
居ラス特ニ八日附指令ニ依レハ在留民ノ抑留、軍民一切ノ  
書類引渡シ特定私有財產(開戦後入手セルモノ)ノ返還等規  
定シアル處(規定ノ内容真意等ハ目下ノ處判然シ居ラス成  
ル可ク緩和スル様努力スル考ヘナリ)此ノ種取扱ハ申ス迄  
モナク日本側ニ對シ非常ニ不利ヲ招來スル惧アルヲ以テ右

事情御了承ノ上貴大臣ニ於テ當地ハ軍政地域下ト事情ヲ全  
ク異ニスル所以ヲ「マツクアーサー」ニ對シ充分徹底セシ  
メラレ在留民ノ保護、私有財產ノ尊重等ニ關シ聯合國側ニ  
於テ篤ト留意スル様注意喚起方御配慮相煩度又當地ニ於テ  
ハ軍事關係以外ノ事項ニ就テハ當館ニ於テ其ノ外交機能停

止トナルモ聯合軍代表ト交渉シ得ル方途ヲ講シ得ル様可然  
御取計相煩度

1200

昭和20年9月10日

在タイ山本大使より  
重光外務大臣宛(電報)

バーセウの行方問題に関する総軍の意向について

バンコク 9月10日後5時00分発

本 省 9月10日後9時00分着

第一五六號(緊急、館長符號)

石射大使ヨリ

「バーセウ」氏ノ行衛問題ニ關シ往電ノ行衛ヲアツサリ認  
ムルコトノ有無ニ付股木參謀ノ歸來報告ニ依レハ總軍ニ於  
テモ右往電ノ趣旨ニ同意ヲ表シタル由ナリ

1201

昭和20年9月11日

在タイ山本大使より  
重光外務大臣宛(電報)

日タイ同盟條約等の廢止に関するタイ側より  
の申越コソヘニテ

別 電 昭和二十年九月十一日發在タイ山本大使より

重光外務大臣宛第一六〇即

右申越し

バンコク 9月11日後7時00分発

本 省 9月11日後10時00分着

第一五九號(至急)

十一日外務大臣ヨリ公文ヲ以テ別電第一六〇號ノ通同盟條  
約其ノ他ノ關係協定ノ廢止ニ關シ申越ソノ次第アリタルニ  
付テハ右ニ關スル回答振り折返シ御回電相成度

(別 電)

バンコク 9月11日後7時00分発

本 省 9月11日後10時00分着

第一六〇號(至急)

I have the honor to inform Your Excellency for the  
communication to your Government that as the pact of alliance  
between Japan and Siam signed at Bangkok on the 1st  
December B.E. 2484 is incompatible with the world conditions  
of peace, His Majesty's Government deem the said pact to be  
terminated and that the same applies to all treaties and  
agreements accessory thereto, including, in particular, the  
memorandum of agreement for the settlement of all payments

between Japan and Siam by means of the special Yen, the cultural agreement signed at Tokyo on the 28th October B.E. 2485 and the treaty concerning the four Malay states and the states of Kengtung and of Mong Pan signed at Bangkok on the

20th August B.E. 2486.

Trusting that the Japanese Government will be have the  
same understanding in this matter, etc.  
~~~~~  
